

寄稿 ブナ山に参加して

新宮山彦ぐるーぶ 湯川一郎

新宮山彦ぐるーぶのホームページに、新春登山企画「ブナ山」が掲載されると同時に、「行きたい」という思いが沸き起こった。私がまだ小学生の頃、夏になると十津川村の親類の家に遊びに行き、鮎どりや川遊び、笹の滝などによく連れて行ってもらったものでした。そんな十津川村の土地は、とても縦長であり、風屋ダムまでも新宮からは、随分と時間が掛つたと記憶しています。

今回、そんな思い出の十津川村の山行であり、ぐるーぶ会員の皆さんともお会いできるめつたにない機会と思ひ参加しました。年末に痛めた左膝も何とかもちこたえ、無事に下山し「はっ」とした次第です。

高津で奈良・大阪組の方々と合流後、急峻なつら折りの狭い道を車で上がり、改めて十津川の地形（谷の深さ）を感じました。そんな地形の中で生活道として使われていた「三里越」の説明を沖崎さんがしてくださいました。まだ車がない時代に、人は生きるため、荷物を担ぎ歩んだであろうこの古道が、風化されることなく、これまで残っていることに感謝したいと思います。

ブナ山への道は、降雪したばかりの雪で気持ち良く、登山が楽しめました。山頂では、いつもの万歳を始め、標識杭打ち、記念撮影、そして少し長めの登

食、皆さんから色々な山の話などをお聞きすることができました。

国道沿いの高津に戻り、解散式を行い、それぞれが帰路につきましたが、車中では、早速、次なる山行の話など、私に限らず、山登りの帰り道には皆、次の山行が頭をよぎっているものだと、一人合点してしまいました。

また、車中の話の中で、玉岡前代表の体調が戻られてきている様子とお聞きし、一安心いたしました。

今回、新春山行に参加させていただきましたが、ぐるーぶの諸行事、とくに道番請などにもできるだけ参加していきたいと考えておりますので、今後ともご指導の程よろしく願ひいたします。また、新春山行にあたり、脚元が不安で遅いにも関わらず参加させていただきましたことお礼申し上げます。